

テーマ：業務の効率化

わが国において 2040 年を展望した場合、高齢者の人口増加は落ち着きますが、現役世代（担い手）が急減します。そのため、国をあげて「総就業者数の増加」と「より少ない人でも回る医療・福祉の現場を実現」することが求められています。現役世代の減少に伴い、医療従事者の確保がさらに困難となることが見込まれており、働き方改革等による労働環境の改善や、医療 DX、タスクシフト/シェア等を着実に推進していくことが重要となります。

何から始める？

業務の効率化は、「さあ、効率化をはじめましょう！」といきなりスタートすることができるものではありません。まず、その部署において、どんな業務を、誰が、どのくらいの時間をかけて行っているのかを可視化する必要があります。はじめから分割みで細かくする作成する必要はなく、まず 1 日のフローを可視化します。有資格者による業務の場合は「誰が」のところにわかるようにまとめます。どのくらいの時間がかかるか、個人差があるものはおおよその時間でかまいません。大枠から作成し、1 日の業務・週業務・月業務まで可視化できるといいでしょう。

業務全体を可視化すると、その業務のフローや全体像から、現状の把握や課題点の抽出を検討します。可視化することで、特定の人に集中している体制や非効率的なフローなど、「当たり前」だったものが、工夫次第で効率化できるケースも多々あります。こうした可視化による全体把握から、業務を自動化・電子化できないかを含めて検討し、そこではじめて、業務手順の見直しやツールの導入、タスクシフトに結び付けていきます。この一連の流れは、可能であれば関わる人全員での検討が理想です。参加せずに決められてしまうと今度は「不安」や「不満」が生じやすくなったり負担のしわ寄せが生じた際、その大きさによっては離職の選択につながってしまうからです。



可視化からの応用

可視化したものは、「『人でなくてもできる業務』から電子化・自動化ツールの導入の判断」や人材不足に陥った際の業務の見直し、「『人でなくては困難な業務』に対する短時間勤務を希望する人材活用の検討」など、安心・安全に 1 日の業務を行うための応用が可能です。是非、作成してみてください。

東京都による支援事業

東京都では、限られた人員でより効率的に業務を行う環境整備や、業務の生産性を向上させることを目的としたさまざまな補助金・支援金を設置しています。

対象や条件の設定もありますが、『医療機関における AI 技術活用促進事業』など、複数の支援事業を設けておりますので、東京都保健医療局のホームページ (<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/>) での検索のほか、東京都医療勤務環境改善支援センターにお問い合わせください。

東京都医療勤務環境改善支援センター

勤改センターでは、医療機関における良好な勤務環境の整備に向けた取組みへの支援を実施しております。お悩みのこと等がございましたら、ご気軽にお問い合わせください。

随時相談窓口
(平日 9:30-17:30)

03-6272-9345



詳細はこちら